

## ひとりひとりの子どもを見つめて⑥

### 赤羽美代子

すべてが破れてしまったような空気の流れの中に、T先生を中心に、Dと子どもたちが立っている。

ここでは、T先生が薄紅色の品を手持って、Dに一生懸命に言い聞かせているところである。「Dちゃん、これね、鞆の中に入れておくと破裂するのよ。破裂するとね、Dちゃんの指なんか、吹きとぶの」と言っているが、Dはむっつりと頬をふくらませて、その品をT先生から取り戻そうとする。「先生がね、Dちゃんが帰るまで大事に預かっておいてあげる」D「いやだ、僕の鞆の中に入れておくんだ」と、語気を強めて足踏みをする。T先生「この間ね、子どもがかんしゃく玉をポケットに入れておいたら、ポケットの中で破裂してしまっただって。それで大怪我して、病院に入院したんだって。気をつけて下さいって新聞に出てたの」Dは、大怪我をして病院に入院させられた話に、驚いた様子で、だまって立っている。

先き程の、Dが宝物のように大事にしていた「ひみつ」の品は、紅色のころころとした、小さい玉の、かんしゃく玉が二個程と、玩具用のピストルのうず巻き状のかんしゃく玉であったらしい。この品を、Dは何の目的で持ってきたのだろうか。ともかく、Dは、大変に無念そうな顔をしている。

T先生もまた、ここは教育の場所であることを胸に抱きかかえてしまつて、この場を一步も譲らない。私は、T先生とDが真剣に向き合っているこの時を大事にして、口をはさむ事を避けた。その時、五歳児のMが「へえー、かんしゃく玉つてそんなに恐いの？　ここでちょっと破裂させて見せてよ」と、T先生に頼んでいる。T先生は早速に石を持つてくる。Dは、いつもの癖で、指をくわえてむすつと見ている。ピストル用のかんしゃく玉の紙をほどいて、上から石で小さな玉を叩くと、パンパチッと線香花火のような細い火が、パツと出て消える。Dはちょっと後ずさりをした。そして、じりじりと私の側に寄ってくる。私は耳を押さえて「やられたー、助けて下さい」と悲鳴を上げて、Dの手をつかんだ。Dもギョッと力を入れて私に寄りかかってくる。そして「フ、フ」と私を見て笑うのだが、それきり、またむっつりとなる。T先生は早めに手を動か

して、パン、パチッ、パン、パチッと破裂させて、終了する。年長組の男の子たちが「すごい。先生の言う通りだ」と少々大げさに言いながら、教師に加勢をする。「ねー、恐いわね」と言うT先生の声に、Dはだまって頷いた。

Dは上履きにはき替え、他の子どもたちと、ぶらり、ぶらりと部屋に入って行く。登園時のはりきった風船玉が、しぼんだしわしわの風船のようになったDを、私はこれで良かったのだらうかと気になりながら、ある会合に出席する為に、幼稚園を出た。Dの担任であるW先生には、出がけに、かいつまんでその時のDの様子を知らせておいた。

その夜、W先生より、今日の保育の様子を電話で受けながら、Dがクラスの部屋で、「おしっこ」のお漏らしをしたとの報告を受けた。

翌日W先生より詳しい事情を聞くと、Dは朝の登園時に「今日もW先生をやっつけちゃうんだぞ」と両親に威張って言ったそうである。母親はDがかんしゃく玉を鞆の中に入れたことは、気がついていない。この二、三日、三歳児クラスの男の子は、W先生をやっつけるのを楽しみに登園してくる。

あのあとDは、いつものように遊んでいるので、W先生もホ

ッと一安心し、Dから離れた。その直後の出来事らしい。DがYに「僕、ここでおしっこしちゃおう」と言いながら、どうどうとしてしまったそうである。

その日教師会を開き、この事について語り合い、反省をした。反省として、まず、私とその場を外す時に、その場、その時の状況をしっかり捕えて、Dの担任であるW教師に依頼することが好ましく思えた。たとえW教師の判断が同じ状況になったとしても、W先生とDの気持ち、何処かで接点がい、Dもまた他の子どもたちも、かんしゃく玉の破裂音と共に、彼等の心の中の何かが気持ちよく破裂して、陰に籠ることはなかったように思えてならない。私、T、Wの三人の教師が、共にDの心の上に、教師の心に乗せて……。もっと違った解決を見ることができたように思われる。

私たちは、教育の場と、教師であることを、真正面に子どもにぶつけると、その教育からは遠く離れ、また子どもからも一番遠くに離れて、何も見えない、そして、貧しい教師になってしまふことを、しみじみと感じたのである。

(豊南坂幼稚園)